

2022. 3. 17

発行: 桜本保育園

044(288)2545

えんだよい 3がつごう



ま^ちの あ^ちこ^ちに 桃^{もも}や 桜^{さくら}の^{はな}が 咲^さき^だし 春^{はる}が や^って^きた^こと^を 教^おえ^てく^れて^いま^す。
 3月^{がつ}12日^{にち} (土^ど) あ^たた^かい^ひ日^ざ差^なし^の中^{なか} 21名^{めい}の^{へん}お^んに^むさん^が 無^ぶ事^じ 卒^そ園^{つえん}の^つど^いを 行^おこ^なす^こと^が でき^まし^た。
 保^ほ育^い園^{えん}で 出^で会^あった ち^ちま^ちょ^ごり^や ぱ^ぱじ^ちょ^ごり[、] お^おう^ちの^ひと^が 用^{よう}意^いし^てく^れた 洋^{よう}服^{ふく}や は^はか^まを 着^きて い^いつ^もよ^りも 緊^{きん}張^{ちやう}した^{かお}顔^で だ^も し^しか^りと じ^じぶ^んの^{ゆめ}と 今^かよ^いから^かよ^う通^{つう}う 小^{しょう}学^{がっこう}の^なま^えを 伝^{つた}え^てい^まし^た。
 今^{こん}し^{ゅう}は 0~5歳^{さい}児^じの 縦^たて^わり^ぐル^ープ^で 散^{さん}歩^ぽに^で出^でか^けて^いま^す。^{へん}お^んに^むさん^が 小^ちい^{さい}こ^{ども}た^ちの お^おせ^わを^をし^なが^ら 散^{さん}歩^ぽの^{じゆん}準^びを^をす^る姿^{すがた}に ほ^ほこ^りし^ます。

新^{しん}型^{がた}コ^こロ^ろナ^な感^{かん}染^{せん}拡^{かく}大^{だい}防^{ぼう}止^しの^ため^に 12日^{にち}か^ら 14日^{にち}ま^で 0~4歳^{さい}児^じは 休^{きゅう}園^{えん}に^なっ^てし^まい^まし^た。
 お^おや^やす^すみ^の 協^{きょう}力^{りき}あ^りが^とう^ござ^いま^した[。] た^たく^さん^のひ^とに 広^{ひろ}が^るこ^とな^く 15日^{にち}か^ら 開^{かい}園^{えん}で^き 濃^{のう}厚^{こう}接^{せつ}触^{しょく}者^{しゃ}に^なっ^た人^{ひと}た^ちも 今^き日^{じつ}か^ら 登^{とう}園^{えん}し^てい^ます。
 こ^これ^から^も 換^{かん}気^きに^きを^つけ 少^{しょう}人^{にん}数^{すう}で^の保^ほ育^いを お^おこ^ない^なが^ら 規^き制^{せい}す^るこ^とよ^りも 元^{げん}気^きに う^うご^ごま^わり^なが^ら 園^{えん}生^{せい}活^{かつ}を お^おく^って^いき^たい^いと^いい^ます。

来^{らい}週^{しゅう}か^ら あ^あた^たら^らしい^お部^ぶ屋^えに 移^{うつ}っ^ての^せい^かつ^が 始^はじ^まり^ます。^した^く 支^し度^どの^ほう^{ほう}と^か 変^かわ^わっ^たり^する^こと^も あ^ある^おと^いい^ます^が よ^よろ^ろしく^お願^{ねが}い^いた^しま^す。(Y)



3月のよてい

- 12日 卒園のつどい
- 16日 園児健診 (1・5歳児)
- 23日 別れ遠足

4月のよてい

- 1日 入園のつどい

おねがい

つかわなくなった コンビカー・さんりんしゃが ありましたら すてるまえに ほいくえんに ひとこえ かけてください。

かみ のぞ
「神さまの望み」

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、
キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」

(テサロニケの信徒への手紙 - 5章16~18節)

2021年度最後のひと月を迎えました。子どもたちの成長の節目である卒園、進級の季節でもあります。キリスト教の暦では、今、レント(受難節)というシーズンに入っています。イエス・キリストの十字架への道を思いめぐらせる期間です。

今月の聖句は、年度の締めくくりの時、卒園するお父さんはじめ子どもたち一人ひとりがこれからも大切にしたいこと、日々の生活において心に留めてほしいことを礼拝で一緒に考えている箇所でもあります。

礼拝の中で子どもたちに、「神さまがわたしたちに望んでいることは何でしょうか?『喜ぶこと』『祈ること』『感謝すること』であると聖書は言っています。しかし「いつも喜んでいなさい」ってあるけど、わたしたちは楽しいこと、うれしいことばかりでしょうかと言うと、元気よく「うん」と答えた子どももいれば、黙っている子どももいました。

コロナ禍を生きる不安に加えて、連日報道されているウクライナ情勢など、辛いこと、悲しいことがたくさんある今日この頃です。だからこそ、みんなが「いつも喜んでいよう」ためには、どうすれば良いのかが問われているように思います。そして、そのために「祈ること」「感謝すること」は切り離すことができない、大切なことではないでしょうか。

子どもたちと声合わせて「へいわのために」を祈っています。

かみさま

わたしたちは みんな

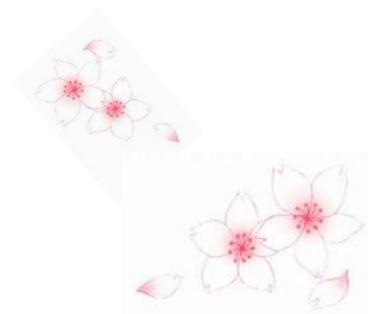
かみさまにあいさされている こどもです。

わたしたちのせかいから せんそうをなくしてください。

せかいじゅうのひとたちが

なかよくくらしたいように。

いえすさまの みなによって。(『こどものいのり』より)



イエスさまは、神さまの望み通りみんなが「いつも喜んで」いるように、十字架の道を歩まれました。

わたしたちも子どもたちがこれから先、喜びと感謝のうちに過ごせるように、「自分だけの平和ではなく、すべてのいのちの平和を求め」祈りをともに捧げたいと願います。

(チャブレン 鄭 富京)



すぱーすPAZの
民族衣装
フォトタイム